

独自の水質改善メソッドで「社会貢献」を考える

【株式会社ウィルステージ】

世界遺産の池がきれいに
独自の水質浄化システム



10月玉の園家でおなじみの平等院鳳凰堂。極楽浄土の宝池を模した阿字池に浮かぶ鳳凰堂の壮麗さが、多くの観光客の目を惹きつけている。世界遺産に登録された美しい景観の裏で活躍しているのが、ウィルステージの水質浄化システムだ。

以前の阿字池はかなり濁っていた。さまざまな浄化対策を試してきたがうまくいかず、頭を悩ませていた平等院がなんとかありませんかと頼つたのが、独自の水質浄化システムを確立させたばかりの同社



だった。システム導入後、

効果は徐々に、そしてはつきりと表れた。「焦げ茶色だった池の水が透明になりました」と、大谷洋士社長。阿字池の劇的な変化は紫目を集め、各種メディアに取り上げられるなど話題になった。

実証された技術は東京へ
「皇居」の漆の浄化に挑む

同社の水質浄化技術は、主業務とする街づくり由来する。「街に子どもたちが遊べる親水公園が欲しい」というリクエストは本気で多い。しかし、夏場に植物プランクトンが発生する水辺は、維持管理が大変で長続きしない。この問題を解決するため、思い付くアイデアを試してみたことが始まりです。

試行錯誤を重ねる大谷社長はある日、自然界に備わる自浄作用に気付く。「山を歩いて、たまに落ち葉が沈んでいてもきれいな水たまりがありますよね。そこで行われている浄化現象を人工的に再現すれば、水はきれいになると考えました」

自らが運営する複合施設のビオトープ



でデータを取りながら、仮説の検証結果を積み上げ、大谷社長は手応えをつかんでいく。そして2014年夏、平等院鳳凰堂・阿字池に導入。その実績は全国に知れ、鎌倉五山に数えられる臨濟宗大本山・円覚寺からも声が掛かる。依頼者が三十数年間一度も底を見たことがない」と話す「妙香池」の池底が見えるようになった。そして、これから取り組むプロジェクトはなんと「皇居のお濠」。夏季オリンピック開催時に、アオコのない水辺を取り戻すことが同社に課せられたミッションだ。

水質浄化システムを応用し
陸上養殖の技術を開発

同社では、水質浄化技術の応用展開も進めている。その一つが完全閉鎖型の陸上養殖だ。現在、海や琵琶湖から遠く離れた自社施設において、水の入れ替えなし

でトラフとヒラメを養殖しており、間もなく初出荷の時を迎えるという。「水質浄化システムの機能により、飼育環境に腐敗菌がなく、薬物や抗菌剤も使用しない完全オーガニックの養殖が実現できている。成長速度も海上養殖の倍に近い。もちろん、トレーサビリティもはつきりしています」

水産養殖から出る有機物を水耕栽培に生かす、「循環型食料生産システム」も同時に開発中。大谷社長は「技術を開発させ、滋賀県の広大な休耕田の活用を視野に入れた」「水質浄化の技術がさまざまな場面で使えることが分かった。今後はこれを、世の中のために使うような展開にしたい」

DATA

株式会社ウィルステージ

企業設計から施設の運営まで、さまざまな規模の街づくりをトータルに手掛ける。2010年、街づくりの課題から生まれた水質浄化システムで水環境浄化事業を開始。有名寺院で実績を上げた技術は、陸上養殖へと新たな展開を見ている。

代表取締役社長 大谷 洋士
〒250-0209 津市市松本1-6-9
TEL: 077-561-7239
<http://www.willstage.com/>



Person

「環境」を事業につなげる